

第11回 建コンフォト大賞

あなたのお気に入りの“土木施設”

当協会では、広く一般の方々の土木施設への興味を高め、建設コンサルタントをより知っていただくために、2009（平成21）年度よりフォトコンテスト「建コンフォト大賞」を毎年開催しています。「あなたのお気に入りの“土木施設”」をテーマに、道路や橋、鉄道、上下水道、空港や港、公園や堤防など、私たちの日常生活を支える土木施設のある風景を撮影していただきました。

2019（令和元）年度も、当協会ホームページやフォトコンテストに関する情報提供サイトへの掲載、全国の高校写真部へのチラシ配布などで作品を募りました。その結果、全国の幅広い年齢層の方々から304点の応募をいただきました。

審査方法

ご応募いただいた作品は、審査委員（5名）による審査会にて審査しました。

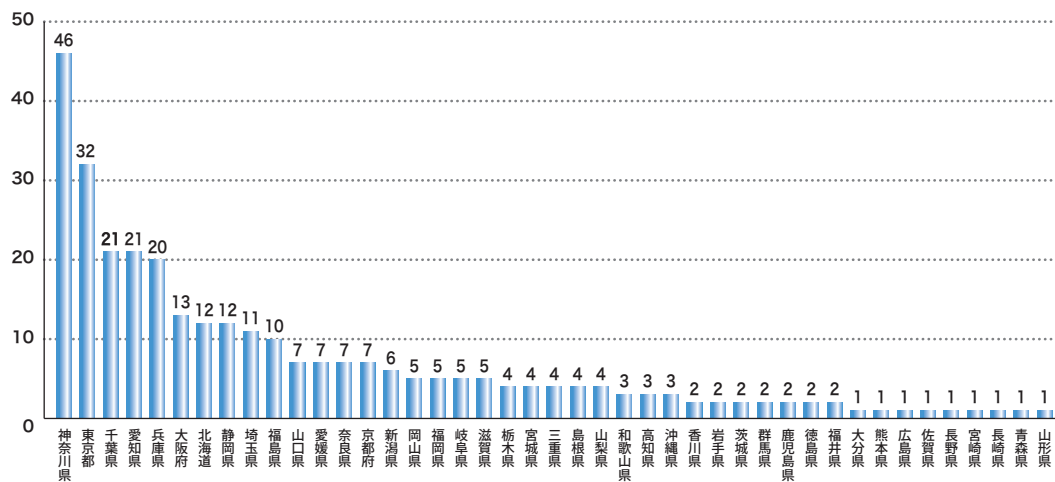
審査結果

最優秀賞1点、優秀賞2点、特別賞10点を決定しました。入賞作品と講評は次ページ以降に掲載するとおりです。

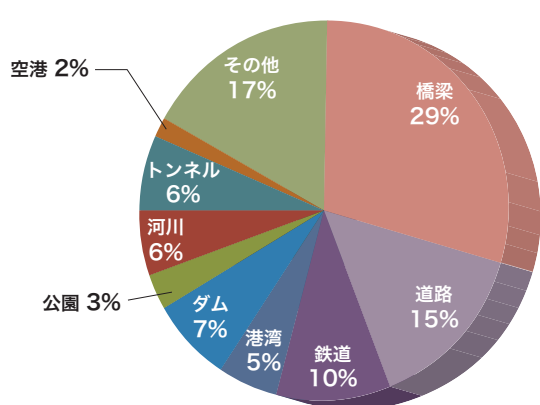
審査委員

審査委員長 宇於崎 勝也（日本大学教授）
 知野 泰明（日本大学准教授）
 八馬 智（千葉工業大学教授）
 初芝 成應（日本写真作家協会員）
 野崎 秀則（建設コンサルタンツ協会広報戦略委員長）

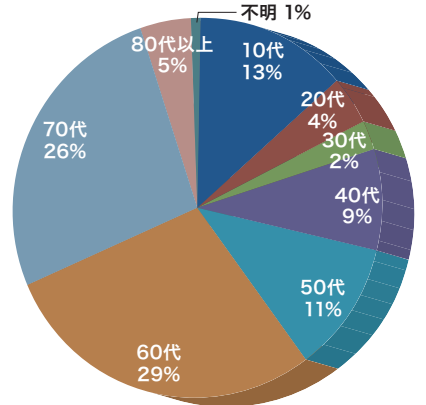
地域別の応募者



写真撮影の対象



応募者の年代



最優秀賞



「狩場」
 福岡県 長 吉秀
 （撮影地：熊本県玉名郡和水町）

【撮影者のコメント】

この白石堰には鷺やミサゴが餌を捕るために来るので撮影に来ます。また、川の水の流れの美しさが好きで、この時期には毎年 comes。この白石堰の役目を調べてみると、田んぼに引く水を調整しているそうです。

講評

熊本県の菊池川下流にある白石堰で、水鳥が餌となる魚を狙って身構える姿が凛々しく、また堰が作り出す波形と相まって美しさと緊張感を漂わせる作品です。撮影者が毎年通っているのもうなずけます。（宇於崎審査委員長）

古代エジプト壁画の様な規則正しい鷺たちの整列は、ふっくらとした雪山の連なりを獲物を狙って見つめます。後ろに光る幾筋も実は越流堰による水の造形とは驚きです。人と鳥との知恵が激しい流れの一時と共に輝きます。（知野審査委員）

堰によって生み出された水流のさまざまな表情と、逆光の中で静止する鳥たちが、とても魅力的に表現されています。写真ならではの手法で、人工環境の中の自然現象が対比的な要素を含みながら融合する風景が捉えられていることに感激しました。（八馬審査委員）

規則正しい間隔で激しく流れる堰の勢いが織りなす、一見真綿の柔らかい絹が敷かれている置物のように、3羽の鷺が等間隔を保ち狩りの目的を達すべく微動だにせず、一点を見つめ立つ鷺と影がリアルに伝ってくる美しく流れる堰が創りだす作品です。（初芝審査委員）

堰から流れる水の動的な美しさと、鷺が静かに魚を狙っている静寂さが共存している。地域の水管理を担う堰が鷺の餌場としても貢献していることもよくわかる。（野崎審査委員）



「豪雨過ぎて」

静岡県 杉山 よしお
(撮影地：静岡県浜松市)

【撮影者のコメント】

豪雨が過ぎた後のダムでの放水。迫力でした。

講 評

静岡県の天竜川中流の秋葉ダムにおいて、豪雨の翌日に一気に放水している様子をとらえている。手前の赤い吊り橋は200mほど離れているが、うまく重なって見え、歩行者のポジションがちょうどよい。
(宇於崎審査委員長)

三門から激しく流れ落ちる滝。大ダムならではの迫力です。その手前を渡る作業員の冷静な姿に、ダム管理者の緊張感を感じます。その位置と対比が絶妙です。
(知野審査委員)

圧倒的な水量が放流されている堤体と、その前に架かる吊り橋。青いゲートと赤いトラス桁、暗いグレーのコンクリートの躯体、白い飛沫と人物。これらが響き合ったシーンが日常と非日常が交錯するようで、とても印象に残りました。
(八馬審査委員)

安全な距離は十分確保していると思うが何食わぬ感じで放水前を歩く人物はダム関係者でなければシャッターチャンスも困難。落流音と風圧水を受け心配させる放水の凄さを捉えた作品であり、ダムの放水を間近に見て、その迫力を知る面白い作品です。
(初芝審査委員)

豪雨が過ぎて、秋葉ダムから放たれる水量の迫力が、ダムが担う治水機能の重要性を表している。手前の赤い吊り橋の軽快さとダムの重厚さとの対比が面白い。
(野崎審査委員)



「プラットフォーム」

大阪府 山根 淳市
(撮影地：大阪府大阪市)

【撮影者のコメント】

広大な大阪駅で、さまざまな人達がさまざまな目的を持って電車を待っている。家路を急ぐ人もいれば、急用で出かけることになった人もいるだろう。デート帰りの別れの時を迎えているカップルもいるに違いない。大阪駅は昨日も今日も、そして明日以降も構内にいる総ての人の思いを飲み込んで動き続けている。

講 評

JR大阪駅のプラットフォームに停車しようとする電車とそれを待つ長い乗客の列。2010年に取り付けられた大屋根の下では各方面行きの電車を待つ人びとの姿。駅構内のせわしなさと喧騒をうまく切り取っている。
(宇於崎審査委員長)

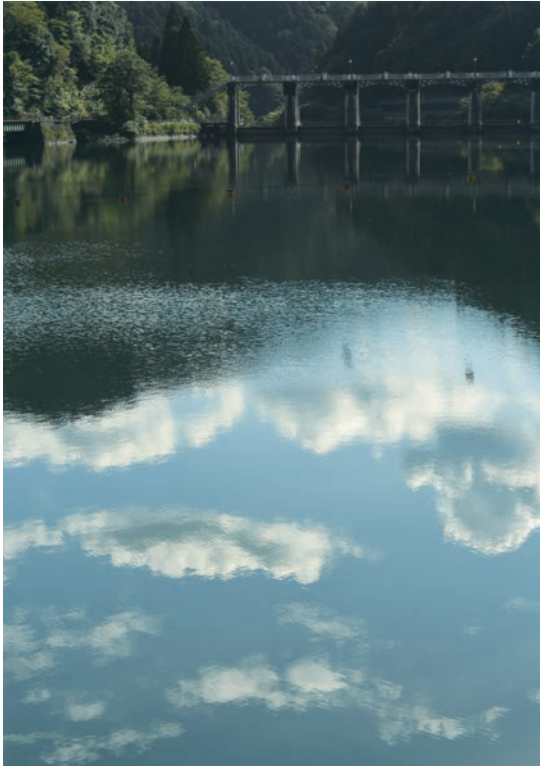
欧米の駅舎ホームの賑わいかと思いきや、近年の大阪駅の風景とは驚きです。旅客ホームの空間を上方から美しく眺めることができるのは我が国はもとより欧米でも限られるのではないのでしょうか。
(知野審査委員)

水平方向に流れる鉄道車両と、その列車に乗り込むために待機している人。それらがまばゆい照明の中に重層的かつ高密度で存在しています。現代の大都市の日常が切り取られているのに、なつかしい未来を感じました。
(八馬審査委員)

手前の電車は動き出しているが、偶然にも全て電車はホームに入っており、手前のホームに電車を待つ人々は正しく列を作っている。よく見ると人々のそれぞれ違う立ち位置、立ち姿が見る側に想像させ、同時に駅の喧騒が伝わる巨大な駅ホーム全体を引き締めている。
(初芝審査委員)

大阪の交通の要衝である大阪駅。多くの様々な人々が利用し、大阪の暮らしや経済を支えていることがよくわかる。
(野崎審査委員)

特別賞



「空をも湛える」
岐阜県 曾出 のどか
(撮影地：岐阜県下呂市)

【撮影者のコメント】
普段は少し暗く、さみしく感じて通り過ぎるだけのダムでしたが、なみなみと水を湛えた水面に写る空と、歴史を感じさせるダムの佇まいが印象的でシャッターを切りました。

講 評

岐阜県の飛騨川中流にある下原ダム湖の湖面に映る青空と白い雲。ダムに向かって暗くなり手前の明るさを際立たせている。わずかな波で雲の輪郭が崩れ、白い絵の具を垂らしたようで水彩画のようにも感じられる。

特別賞



「富士山を守る」
山梨県 秦 伸一郎
(撮影地：山梨県富士吉田市)

【撮影者のコメント】
砂防施設により登山者が安全、容易に頂上まで行けることは有難い。いつまでも、富士山が世界遺産であるために微力でもできることを考えたい。

講 評

濃い朱色の配色からして、アジア大陸にある仏都の風景か？答えは富士山を守る砂防施設とのこと。他国を想起させる風景となったのは、土木施設と撮影者の技のコラボレーションによるものと思います。



「夜明けの棚田」
新潟県 中野 金吾
(撮影地：新潟県佐渡市)

【撮影者のコメント】
世界農業遺産認定の急峻な里山の棚田です。自然に形成されたものではなく、すべて人の手によって造られています。江戸時代に開田が進み、その形状を残しながら受け継がれてきました。機械作業が困難ながら、一人ひとりが棚田の保全に取り組んでいます。その芸術的形状は周囲の自然と一体化していて感動します。越佐海峡を昇る朝日や雲の彩りは、いつも美しく新鮮で心を穏やかにしてくれます。やがて朱鷺が舞い一層美しい姿を見せてくれることでしょう。

講 評

佐渡島の世界農業遺産である岩首昇竜棚田において、明け方の長時間露光撮影で自動車のヘッドライトが光の線となって映り込み、稲にも光があたって幻想的な姿を見せた。美しい風景に時間を取り込んだような作品。



「絶景空中散歩」
大阪府 廣瀬 靖之
(撮影地：兵庫県神戸市)

【撮影者のコメント】
兵庫県神戸市と淡路島との明石海峡に架かる世界最大の吊り橋である明石海峡大橋では、約300mの主塔に上ることができる貴重な体験ツアーが実施されています。海面上約50mの橋桁の中にある網の目状のグレーチングの管理用通路を主塔まで約1km、航行する船を上から見下ろしながら空中散歩を楽しむと、主塔の中にあるエレベーターで塔頂へ。海面上約300mの高さがある主塔の塔頂からは360度に広がる絶景大パノラマが堪能できます。

講 評

世界最長の吊り橋「明石海峡大橋」。その主塔の高台で遠くを目指す若者たちの指先は、彼らの未来に向けてられている様にも映ります。人が造り得た超高からの眺めは、彼らの心にずっと永く留まることでしょう。

特別賞



「『時』の交錯」
北海道 及川 文
(撮影地：北海道夕張市)

【撮影者のコメント】

2015年のシューパロダム completion とともに湖底に沈んだ白銀橋が、この夏の湯水によって再び姿を現してくれました。この姿が見えるうちにできる限り美しく撮りたくて、何度も足を運びました。この日、立ち昇る朝もやの中で静かに輝いていた白銀橋。向こうに見えるのは新たに建設された現在の白銀橋です。交錯する過去と現在、そしてダムや橋の恩恵の先に繋がっていく未来…それぞれの「時」に対する思いが、胸に溢れた朝でした。

講 評

ダム湖に沈んだアーチ橋が湖面に現れ、それと呼应する現役のアーチ橋が奥にあるという、時間の経過を強く感じる写真です。湖面に揺らぐ朝霞と幻想的な色調によって、見る人の中に物語を生み出し、静かに心に響きます。



「待機中」
大阪府 内山 晃亮
(撮影地：山梨県南アルプス市)

【撮影者のコメント】

河岸にひょっこり現れる三角の物体。一見なにかのオブジェ？と思ってしまったが、河川が増水した際に水の流れを変えて、堤防を守る施設とのことだ。特に流れの急な釜無川では、このような施設が点在している。恐らく今日も未曾有の水害に備えて待機中なのである。

講 評

災害時によりやく存在意義が発揮される土木施設の日常に焦点を当て、その牧歌的な様子を浮かび上げるといふ、とても気持ちの良い作品です。青や緑の彩度が強調され、主役のコンクリートブロックとのバランスが上手く取れています。

特別賞



「放課後トワイライト」
埼玉県 忽那 博史
(撮影地：埼玉県さいたま市)

【撮影者のコメント】

私たちの暮らしに欠かせない「電気」を、安全に休みなく送電するために重要な役割を果たしてくれている鉄塔と送電線。普段はそれほど気にも留めない平凡な風景が、この日は夕焼け空をバックに、土手を散歩してきた近くの中学生たちと遠くを飛行する旅客機が、その存在感を伝えてくれています。

講 評

美しい夕日に照らされた送電線と鉄塔が、何かの生き物のように今にも動き出しそうな大きなエネルギーを放っている。日も落ち暗くなる土手沿いで、半ズボンのサッカースタイルの中学生たちの鉄塔を曳いているかのような姿と、見事な夕暮れが映る作品です。



「歴史とともに景色に溶け込む」
宮崎県 田上 幸喜
(撮影地：宮崎県宮崎市)

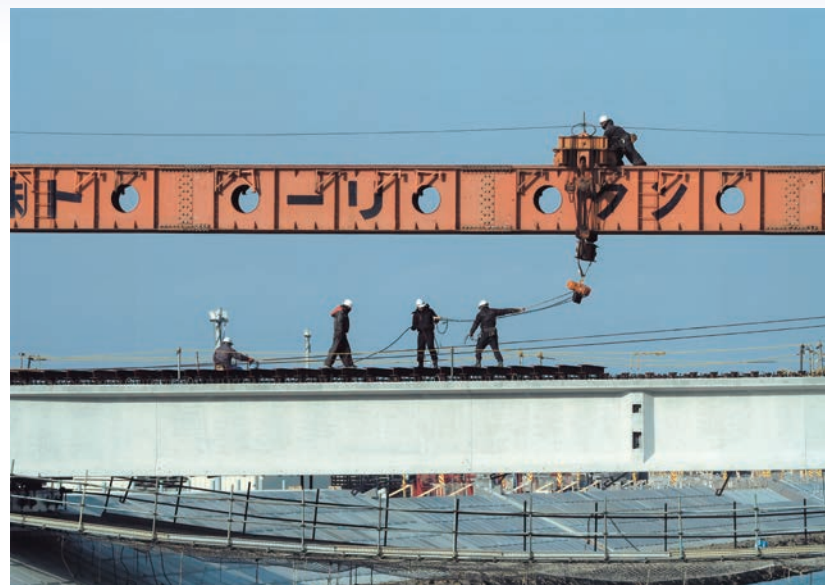
【撮影者のコメント】

宮崎市街地の大淀川右岸に存在する杭出し低水水制です。現在は、国で管理していますが、宮崎県により明治34年に設置されたものです。現代の多自然川づくりの先駆けとなるような施設です。長い年月を経て、やっとこの風景になじんだというか、なくてはならない存在となっています。

講 評

明治時代に設置された杭出しは昔はよく目にした懐かしい情景です。遠くの山々が微かに映し出されており、手前の水辺の美しさと緑の芝生のコントラストが優しく映る作品です。

特別賞



「ご安全に」
宮城県 横田 三郎
(撮影地：宮城県名取市)

【撮影者のコメント】
仙台空港へ旅客機の写真を撮りに行き、たまたま見かけた空港脇の橋の架け替え工事中の写真を撮影しました。作業されている方々の一所懸命な姿に頭が下がります。

講 評
仙台空港の脇に架かる橋の架け替え工事中の風景。大規模な土木工事を支えるのは人であり、そのひたむきさが感じられる。



「長い長い防潮堤」
宮城県 八木 英雄
(撮影地：宮城県名取市)

【撮影者のコメント】
東日本大震災の津波で大きな被害を受けた名取市閑上地区に設けられた防潮堤です。散策する人々の姿もみられ、悪夢を忘れさせるような風景が広がっていました。

講 評
宮城県名取市閑上の防潮堤。いたましい東日本大震災を経て、地域を守るために建設された防潮堤。散策路としても利用され、悪夢を忘れさせるような風景を呈している。

【入賞作品マップ】

